

## 心の栄養剤No.214ー①『先祖に感謝する心』

40歳を過ぎた人たちに語っていただきたい「人間学」とはどういうものか？

日本が誕生して2678年。私たちの先祖は大切な思想を伝承しながら、それを子孫へとつないできました。「その思想こそが日本人の心をつくってきた」と私は考えているのです。

ところが、豊かになるにつれ、その思想を伝える機会が減りました。本当に大切なものを我々日本人は失くしてしまったのです。

そして今、先祖に感謝する子どもがだんだん少なくなってきました。彼らの次の世代は、なおさら感謝の気持ちを持たなくなることでしょう。

しかし、これを子どもたちの責任にしてはいけません。日本を変えなくてはいけないのは、少なくとも今40歳を過ぎた大人の責任です。

私は『天運の法則』（現代書林）という本の中で「人間学」について書きました。その中で、一番大事にしてほしいこととして提案しているのが「真の親孝行」です。

皆さんは親孝行していますか。それは真の親孝行でしょうか。

「母にバッグを買ってあげました」というのは真の親孝行ではありません。

**親から、「おまえが私の子どもでよかった」「生んでよかった」と言われることこそが真の親孝行だと私は思っています。**

オーストラリアのある研究機関が、死を間近にした人に「人生で後悔していることは何ですか？」と質問しました。

すると最も多かった答えは「自分をもっと幸せにすればよかった」だったそうです。

人生を送る上で変えてはいけないものを一言で言うなら、それは「**大切なものを大切に生きて生きる**」ということです。

その一つが「先祖」です。ですから自分の先祖に思いを馳せ、手を合わせていただきたいのです。

それから「血縁」と「地縁」。人間の縁はこの二つで成り立っています。血のつながりのある縁だけでなく、職場の仲間や旅先の土地で出会った人との縁も、同じように大切にしていきたいと思います。

**そして最も大切にすべきは、やはり「自分自身」です。**

人生は1回きり、です。死ぬ前に「自分の人生って何だったのだろう」と後悔してしまう人生ではもったいないです。

**限りある命を大切に、幸せを実感できる自分の人生を送っていただきたい**と思います。

## 心の栄養剤No.214-②『拝むこと』

「拝むこと」は、私たちにとって実はとても大事です。

日本には八百万の神がいて、山にも海にも商売にも神様がいます。私が小さい時、多くのお店に神棚があり、親父はそれを見る度に手を合わせていました。私も一緒に拝んでいました。

それが小脳や運動連合野に記憶され、いつしか私も神棚を見ると手を合わせるものが「習慣」になりました。

昔は、何かあるごとに神社に行ってお礼を言いながら手を合わせたり、神棚に向かって手を合わせていましたよね。

子ども時代はその行為の意味が分からなくても、大人の真似をしているうちに人間の脳の一番大事なところに記憶されていくものなのです。

**神様を信じられることは人間の一番の特権です。だから人間は拝まなきゃいけないのです。**

それは理屈の脳ではなく、本能の脳に刻むべき大切なことだと私は思います。拝まなくなったら人間でなくなるのではないかとさえ思います。

宗教は何でもいいのです。「いつ、何に拝むか」も自由です。「**ありがたい**」と思って**手を合わせる行為自体が大事**だということです。

それが、結果的に自分の中にあるトラウマを追い払うことにもなります。

そして、**拝むことを通して私たち人間に「心」という目に見えないものがつくられていく**んですね。

株式会社サンリ 代表取締役会長/ 西田塾 塾長 西田 文郎

今年8月の「夏休み」や「お盆休み」は、コロナ禍の中、自粛していた故郷への帰省～里帰りが3～4年ぶりにできます、というお話をよくお聞きします。

故郷にはお一人おひとりにとって**手を合わせる～拝む～感謝する**対象が多いのではと思います。

コロナ禍自粛の中、身に染みて感じた「当たり前」という気持ち～日常がいかにか「当たり前」ではなく「有難い事」なのかという思いを込めて「**親孝行**」～「**墓参り**」などを通して**脳環境をリフレッシュさせる**”夏”にしましょう。

PS：コロナが5類になったとはいえ、コロナはもちろん、インフルエンザ～ヘルペス～ヘルパンギーナ等々のウィルスによる感染症は異常というくらい増えていますので、くれぐれも無理しすぎず、上手な休養～養生を十分心掛けて元気な夏をお過ごしください

くすりのキュート 倉光 浩城

※ご相談がございましたら、いつでもお電話くださいませ😊

TEL (090-8357-2904)

